

こんにちは！ 室長の工藤です。

明治から昭和戦前期の日本にあった公共の陳列施設「陳列所（館）」をご存知でしょうか。有名なところでいうと、広島原爆ドームはかつての「広島県物産陳列館」でした。この施設は地域の象徴的な場所に設置されることが多く、展覧会などの会場として利用されました。青森県内では、弘前商業会議所附属物産陳列館が写真などで知られていますが、現在の青森市内にも県の施設として「青森県物産陳列所」がありました。

青森県物産陳列所は明治22年（1889）に農事試験場の附属施設として開設され、明治42年以前に大野村に移転したともいいますが、私が確認し得た明治38年以降は、青森県立第三中学校（のちの青森中学、現青森高校の前身）の東隣、現在の青い森公園の東側部分にあり、明治43年7月中旬に廃止となっています。

ところで、明治43年5月3日、青森市は未曾有の大火に見舞われました。陳列所は罹災を免れたものの、県は7月に廃止を決定しました。実は、この頃県と市との間で土地の交換交渉が進められていて、その結果陳列所の敷地・建物は青森市へ「無代譲渡」されることになったのです。

そこで、市では譲渡された陳列所の活用法を検討したところ、大火で焼失した市役所を移転させるという案が浮上りました。しかし、市役所の移転案は10月の市会に諮られたものの、了解を得るには至りませんでした。こうして陳列所の取扱いは宙ぶらりんのまま年を越すことになり、併せて焼失した市役所庁舎の問題もそのまま残されることになったのです。

翌明治44年となり、市役所はおなじく大火で焼失した新町女子尋常小学校の跡地（現青森県営駐車場付近）に新築され、8月5日から執務が開始されました。新庁舎は県庁にも近く便利な場所にあり、昭和20年（1945）7月28日の青森空襲で焼失するまで、30年以上使用されました。一方、陳列所の方は明治44年6月末の段階でも利用方法が決まっておらず、市はひとまず第三中学校の裏手に建物を移し、敷地は水道設備の資材置き場として使うことにしました。そして、翌昭和45年3月下旬には売却が決定しました。また、第三中学校も7月に移転となり、空いた校舎には長島尋常小学校に入っていた新町女子尋常小学校が移ってくることになりました。

こうして青森市の陳列所は一旦姿を消すのですが、大正2年（1913）に青森商業会議所を中心に陳列所新設の機運が高まり、大正9年の県会でその計画が決議されたといえます。



青森県物産陳列所周辺
（明治39年「青森市全図」
歴史資料室蔵）